

2013年3月期 第1四半期決算 カンファレンスコール 質疑応答(要約)

Q.

ジェネリック医薬品が伸びているのは一般名処方の影響と聞くと、どのくらいの影響があるのか？

A.

難しいところですが、一番影響が大きいのは薬剤服用歴管理指導料であり、それに調剤体制加算や一般名処方加算の効果が複合的に絡んでいると考えています。

Q.

研究開発費の進捗率が低い。年間計画ほど使わない可能性が高まっているのか？

A.

第1四半期の計画を若干下回りましたが、それほど乖離はありません。一部第2四半期にずれたものもあります。もともと第1四半期の方が第2四半期より少ない計画でした。また、今期は上期と下期は同じぐらいの計画です。

Q.

売上総利益率が通期計画の46.3%よりも悪い。どう理解したら良いか？

A.

計画に織り込んでいた薬価改定の影響が一番大きかったのが原因ですが、第2四半期以降は原価率は改善していくと見えています。具体的には、第1四半期に比べ稼働率が向上すること、原材料価格交渉の効果が出てくること、売上も第1四半期とそれほど変わらないと見込んでいることなどです。

Q.

新製品の売上の状況はどうか？

A.

年間計画11億円に対し、順調なスタートであると考えています。

Q.

新製品が売れているのは、制度改正の影響か？

A.

ジェネリック医薬品使用促進策の影響は大きいですが、決してそれだけではなく、当社製品の良さが理解され、選ばれていることも原因と考えています。当社は業界平均よりも成長していると認識しておりますが、これは制度改正の影響だけでないことを示していると考えています。

Q.

病院への納入額の伸びが低い。構造的に伸びないということか？

A.

病院の採用数量自体は伸びていますが、薬価改定の影響が大きく、数量増でカバーが難しいところもあります。また、中計で策定した当社の病院向け施策の効果がまだ出ておらず、今後効果が出てくることを期待しています。